

# ケアマネジメント実践ネットワーク メールマガジン Vol. 6

2023/9/12 配信分



## 今回のメイントピック

### 適切なケアマネジメント手法実践研修における事例の紹介 part 5

性別	女性	認定区分	要介護 2	年齢	90歳
居住形態	戸建て、長男夫婦同居		主な疾患	慢性腎不全、アルツハイマー型認知症、糖尿病	
利用サービス	デイサービス（週 5 回）				

#### この事例を選定した理由

基本ケアの44項目の中で、把握できていない項目が多くあったため選定した。医師やデイサービス職員と連携しながら、さらに具体的、科学的な情報収集を進めたい。また、情報収集を通じて、これまでの支援の中で状態が改善されてきている点について、今後どのように継続支援をしていくべきか検討したい。

#### 研修開始時における事例の課題：主介護者の負担の増大、家庭での役割が減っている

同居の長男嫁は実母の介護も行っており、家族負担が大きい。  
また、「利用者本人がするとかえって時間がかかってしまう」という理由から、家族が代理をすることが多く、**家庭内での利用者本人の役割が減っている**ことがわかった。

#### 実践研修で着目した基本ケアの項目と実際の取り組みと変化

##### 🏠項目5 望む生活・暮らしの意向の把握

利用者の**家庭での役割を家族が代理していることがわかった**。利用者の**自立支援に向けて家庭内での役割も重要**であると考えている。一方で、利用者本人に家庭内での役割も含め、生活について何をしたいか確認したところ、**家庭内での役割は長男嫁に任せ、デイサービスでの役割(手芸品の作成、販売)を重視したい**と考えていた。今後は、**本人の意向と家庭での役割のバランスを考えた支援を検討**したい。

##### 🏠項目19 将来の生活の見通しを立てることの支援

認知機能の低下が進行する中で、**今後自宅やデイサービスで取り組みそうなことについて本人や家族と検討を試みた**が、利用者の家族が体調不良となり検討は進められなかった。一方、主介護者の長男嫁が体調を崩している間は、**利用者本人が積極的に家事を手伝っていた**ことがわかった。また、家族全員が自宅で療養していたため、**利用者や家族間のコミュニケーションも活発になった**こともわかった。今後は**利用者の残存能力の維持に向けて、家族への情報収集も重視**したい。

##### 🏠項目42 本人や家族等に関わる理解者を増やすことの支援

長男嫁は**認知症に関する地域の勉強会に参加したり、介護経験者から助言をもらうなど、認知症への理解が深めており**、生活にも余裕が出てきている。また、ジムに通うなどリフレッシュもできるようになっている。今後は、**認知症カフェや家族会も紹介するなど、家族への支援も継続的に実施**していきたい。

「適切なケアマネジメント手法」基本ケアに関する資料は下記HPから閲覧できます。

URL : <https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/caremanagement/04/>

▼冊子



▼項目一覧



## 適切なケアマネジメント手法に関するQ&A

適切なケアマネジメント手法に関してよくある質問と回答をご紹介します。

### Q. 適切なケアマネジメント手法はどのような場面で活用できますか？

A. 「適切なケアマネジメント手法の手引き」では、以下の4つの場面をご紹介します。

①ケアマネジャーがアセスメント・モニタリングやなど、**ケアプラン原案の作成**に活用する。

②指導担当者が**事業所内や同行訪問での指導**に活用する。

③地域包括支援センターや職能団体が**相談支援や研修、地域包括ケア会議**に活用する。

④保険者が**多職種連携やケアマネジメント支援の仕組みの整備に向けた検討**に活用する。

これらをケアマネジメントプロセスに沿って言い換えると、アセスメントにおける情報収集を始める前に仮説を持つ段階で活用できるほか、抽出した課題に基づいて支援内容を具体化・個別化していく段階でも活用できます。上記4つのいずれの場面の活用でも、どちらの段階で活用するのかを意識すると、より使いやすいくと考えております。

### Q. 新人への指導に活用する際、どこから掘り下げて使うとよいですか？

想定される支援内容ごとに情報収集の実施状況や支援の検討状況を点検し、抜け漏れていた点に着目して指導助言するような活用法を検討すると良いと思います。また、情報の収集・整理・分析と課題抽出を苦手とする経験が浅い方に対しては、まず自身の視点の「抜け・漏れ」を知ることで、指導助言の効果を高めることができます。なお、点検のツールとして、「**自己点検シート**」を整備しているのでご活用ください。

(右のQRコードからも自己点検シートをご覧ください。)



HPには他にも様々なQ&Aが掲載されていますので、ぜひご覧ください。

URL : <https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/caremanagement/06/>



### 適切なケアマネジメント手法検討委員インタビュー動画紹介

## 「行政・ケアマネジャー・多職種の協働におけるケアマネジメントの展開」

国際医療福祉大学大学院 医療福祉経営専攻 教授 **石山 麗子 先生**

石山麗子先生の動画では、「行政・ケアマネジャー・多職種の協働におけるケアマネジメントの展開」についてお話していただきました。

動画では、「介護保険におけるケアマネジメントの専門性」、「適切なケアマネジメント手法の起こりと生成過程」、「適切なケアマネジメント手法の今後の可能性」について、多職種や行政との連携の重要性を交えながら解説していただきました。今後、意思決定支援や科学的介護情報システムなど多職種協働で行うべきことは増えることが予測されます。多職種協働に手法をお役立ていただく際にご参考ください。

動画の視聴はこちらから！



## このメールマガジンで取り扱って欲しいトピックを募集しています！

このメールマガジンでは、今後も「適切なケアマネジメント手法」などケアマネジメントに関する情報を発信していきます。ケアマネジメント実践ネットワーク会員の皆様は、このメールマガジンで取り扱って欲しいトピック、提供して欲しい情報などがございましたら、下記のお問い合わせ先までメールにてお気軽にご連絡ください。

次回の配信日は**2023年10月3日（火）**を予定しております。



お問い合わせ先

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター ケアマネジメント実践ネットワーク事務局 辻本、山内

E-mail

[100860-caremaneML@ml.jri.co.jp](mailto:100860-caremaneML@ml.jri.co.jp)

※事務局内での管理・共有のため、メールでのご連絡をお願いしております。